

小笠原の蛾 最近の話題(マクロ編)2

○木村正明・駒井古実・高橋公彦

小笠原諸島は東京から 1000km 南の太平洋上に位置する海洋島で、北から聳島列島・父島列島・母島列島・硫黄列島に属する 30 余りの島からなる。竹内・大林による「小笠原諸島産蛾類リスト」(2006), ならびに日本産蛾類標準図鑑によれば, 小笠原諸島からはおよそ 200 種のマクロ蛾類(ツトガ科・メイガ科等を含む) が記録されている。

近年, 地元在住の方々の活躍もあり, 小笠原からの蛾類の報告が増えてきている。生態に関する報告が多いが, 昨年はシマイスノキアツバ, オガサワラエグリヅマエダシャクの 2 種のマクロレピが新種記載された。

演者らは 2014 年 3 月から 2017 年 3 月にかけて, 8 次にわたり小笠原諸島での蛾類調査を行っている。前回の講演(2016 年 2 月)以降の 3 次にわたる調査では, 灯火採集を行うとともに, 幼虫の探索・飼育にも力を注いだ。本講演では調査で確認できたマクロレピの幼虫類について紹介する。

- オガサワラフトスジエダシャク
- トガリサザナミシロアオシャク
- イチモンジホウジャク
- アトジロコブガ
- クロタバコガ
- シマイスノキアツバ
- オオシラホシアシブトクチバ
- ホラズミクチバ (!)
- Hypena sp.

その他…